

役員名簿

理事・監事

(令和5年7月1日現在)

役職名	氏名	所属
理事長	百島 則幸	理学博士 九州大学名誉教授(放射化学)
副理事長	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境システム工学・廃棄物工学)
副理事長	吉留 総	元福岡県環境部長
業務執行理事	仲島 賢	当協会事業本部長兼総務部長
理事	大上 和敏	理学博士 大分大学教育学部教授(地球化学)
理事	熊懐 達夫	九州電力株式会社 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部(環境)部長
理事	勢一 智子	西南学院大学法学部教授(環境法学)
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院創成科学研究科教授(衛生工学・環境工学)
理事	矢野 真一郎	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境水理学)
理事	山口 敦子	農学博士 長崎大学総合生産科学域教授(魚類学・水産資源学)
監事	甲能 市郎	甲能公認会計士事務所 所長
監事	丸田 哲也	株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 取締役(監査等委員)

評議員・顧問

役職名	氏名	所属
評議員(会長)	浅野 直人	福岡大学名誉教授 元当協会理事(法学・環境学)
評議員	芝原 雅彦	理学博士 大分大学理工学部教授(有機化学)
評議員	下東 康幸	理学博士 九州大学名誉教授(生化学)
評議員	杉原 真司	理学博士 九州大学アイソトープ統合安全管理センター准教授(放射化学)
評議員	薛 孝夫	農学博士 元九州大学大学院農学研究院准教授(保全生態学)
評議員	田尻 浩昭	九州電力株式会社 原子力発電本部 原子力管理部長
評議員	田中 昭代	医学博士 九州大学プラズマナノ界面工学センター特任講師(環境医学)
評議員	松藤 康司	工学博士 福岡大学名誉教授(衛生工学・廃棄物工学・環境微生物)
評議員	弓削 こずえ	農学博士 佐賀大学農学部教授(灌漑工学・利水工学)
技術顧問	石橋 健二	工学博士 元九州大学大学院工学研究院教授(放射線計測学・原子力学)
技術顧問	内田 唯史	工学博士 元当協会副理事長(環境工学)
技術顧問	松岡 信明	理学博士 元当協会副理事長(放射化学)
技術顧問	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 前当協会理事長(材料化学・プロセス工学)

技術諮問委員

役職名	氏名	所属
技術諮問委員	穴井 謙	工学博士 福岡大学工学部教授(騒音)
技術諮問委員	宇野 誠一	水産学博士 鹿児島大学水産学部附属海洋資源環境教育研究センター教授(環境毒性学・環境化学)
技術諮問委員	岡島 敏浩	理学博士 公益財団法人科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター副所長(放射光物性科学)
技術諮問委員	清崎 淳子	理学博士 公益社団法人日本技術士会 九州本部副本部長(地球科学・地熱地質学・防災)
技術諮問委員	久場 隆広	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境工学)
技術諮問委員	Sergei Y. Tolmachev	理学博士 ワシントン州立大学教授(保健物理・放射化学) Washington State University
技術諮問委員	久留 百合子	株式会社ビスネット 代表取締役
技術諮問委員	広城 吉成	工学博士 九州大学大学院工学研究院准教授(地下水環境学・上水道工学)
技術諮問委員	逸見 泰久	理学博士 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授(動物生態学)

編集後記

このたびは「環境管理」(第 52 号)をお読みいただき、誠にありがとうございます。

本年 5 月から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが 2 類相当から 5 類感染症となり、私達の生活もコロナ禍前に徐々に戻りつつあります。一方、昨年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化の様相を呈し、物価上昇も続いている状況です。また 5 月には広島で G7 サミットが行われ、ウクライナ情勢、核軍縮、気候変動、新型コロナウイルス感染症対策等について議論されました。環境分野では、「生物多様性国家戦略 2023-2030」が 3 月に閣議決定され、その内容は生物多様性損失と気候危機への統合的対応、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現に向けた社会の根本的変革、2030 年までに地球の陸・海それぞれの 30% の面積を保全するという目標 30by30 の達成に向けた取り組み、その取り組みによる健全な生態系確保と自然の恵みの維持回復、自然資本を守り活かす社会経済活動の推進などとなっています。今後益々、気候変動と併せた生物多様性の保全・再生のための対応、そのための行動変容が私たちに求められています。

本号の巻頭言では、国土交通省九州地方整備局長藤巻浩之様に九州の河川整備における環境に関するこれまでの取り組みの紹介と、今後の気候変動に対応するための地域を含めた川づくりや流域治水の在り方等についてご示唆いただきました。

寄稿論文では、近年、環境汚染と生物影響への関心が高まっているマイクロプラスチックの大濠公園池の湖底堆積の現状を中田先生に、生態系への影響評価をする上で重要な食物網の新たな解析法として脂肪酸を利用する方法を藤林先生にご紹介いただきました。また、近年の温暖化の問題からくる沿岸部での地下水塩水侵入対策法としてのバリア井戸配置についてのご提案を広城先生に、同じく温暖化に伴う大規模豪雨出水が有明海の貧酸素発生に及ぼす影響を矢野先生にご紹介いただきました。宇野先生には、底質中の化学物質の生物影響評価方法として、魚胚を用いる方法をご紹介いただきました。また、福岡工業大学附属城東高校科学部の皆さんには、和白干潟で減少しているアサリの産卵期推定結果をご紹介いただきました。本誌初の高校生による寄稿となりました。本研究の成果がアサリ資源の回復につながることを期待しています。

業務や研究、学業等でお忙しい中、ご寄稿いただきました著者の皆様に心よりお礼申し上げます。

いずれの寄稿論文も、我が国が今抱えている環境問題の解決や生物多様性国家戦略の達成に寄与する内容となっており、お読みいただきました皆様方の今後の業務や研究の一助となれば幸いです。

今後とも、九環協は皆様とともに社会の持続的発展に貢献していく所存です。これまで同様、ご指導・ご支援のほど、どうぞよろしく願いいたします(高比良)。

一般財団法人九州環境管理協会 会報

「環境管理」第 52 号

令和 5 年 7 月 31 日発行

発行者 百島 則幸

発行所 一般財団法人九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411